雄武地域マリンビジョンかわら版

第83号
令和５年
６月30日

ホタテ本操業本格化！

今年のホタテ漁の本操業が５月29日からスタートしました。昨年は６月１日からスタートし、水揚げ量は２万２千トンで漁獲高は47億７千万円と過去最高を記録。今年も昨年並みの２万トンの水揚げを計画しています。本操業に先立ち３月から行われていた漁場造成では、前年の本操業海域（雄武沖）で取り残した分を漁獲するとともに、稚貝の天敵であるヒトデの駆除を行っています。雄武漁協では、漁場を４つに分けて毎年５月にそのうちの１区画に稚貝を放流し、３年間育てた貝を水揚げします。本操業は11月末まで続けられる予定です。

ホタテ漁の現場に密着！

ホタテ漁船「第21善漁丸」の船長であり漁船10隻を率いる船団長でもある上林秀範さんご協力のもと、ホタテ漁を取材しました。

午前３時30分　夜明け前の元稲府漁港を出港。雄武漁港と元稲府漁港から合計10隻が、今年の本操業海域である沢木沖の漁場を目指します。

午前４時00分　漁場に到着すると、船体の左右に装備した「ハ尺」と呼ばれる鉄製のけた網を海へと投げ入れます。海底の深さは約50メートル。ゆっくりとした速さで船を進め、約1kmハ尺を曳いていきます。

午前４時15分　船首に取り付けられたアームでハ尺を引き揚げ、網に入ったホタテ貝を甲板に広げます。反対側のハ尺も同様に引き揚げた後、漁場を移動し再びハ尺を投入。次の網を引き揚げるまでの間に、正貝、割れ貝、空貝、ヒトデなどに素早く選別し、船倉に積み込みます。

午前４時30分　再びハ尺を引き揚げ、選別が終わった甲板にホタテ貝を広げ、選別作業が行われます。

午前８時30分　この日（６月１１日）の目標であった14トンのホタテ貝の引揚作業が終了。

元稲府漁港へ向かいます。（現在は１隻18トンを目標に操業中）

午前９時00分　元稲府漁港に帰港。岸壁に横付けされたトラックに、ホタテ貝をクレーンで積み込みます。

午前９時45分　トラックへの積込作業が完了。上林船団長は「沖側の漁場から引いており、時化の影響なのか空貝が密集しているところは多いが、歩留まりが良く、計画達成が期待できそう」と話していました。

※上記の時間についてはその日の漁の状況によって変動します。

取材の日は波も穏やかでしたが、船から降りると写真撮影だけで体がぐったりと疲れてしまい、揺れる船の上で作業する漁師さんの大変さを実感しました。上林船団長、乗組員の皆さま、取材にご協力いただき、ありがとうございました。

「ホタテ」「バター」町民へ無料配布

５月 27 日、雄武漁協による町民向けのホタテ貝無料配布が行われました。町民への日頃の感謝を伝えようと平成 25 年度から実施しているもの。

配布されたホタテ貝は 9.6 トン。当日の朝、雄武漁協の養殖作業用施設において、漁協職員と漁業者、町職員合わせて 50 人ほどが袋詰め作業を行いました。配布されたのは、殻付きのホタテ約４キロ。

今年は JA 北オホーツク農協から、新型コロナウイルス感染症の影響により需要が落ち込んでいる乳製品の消費拡大につなげようと、バター2 個とスキムミルク１袋も無料配布されました。

各自治会の引き渡し場所では訪れた町民が次々と受け取り、「刺身のほかに、バター焼きにして食べたい」と笑顔で話していました。

完売御礼！札幌で観光物産展開催！

５月 25 日と 26 日の２日間、札幌市のホテルポールスター札幌１階屋外特設会場で雄武町観光物産展が開催され、約 350 人が来場しました。

今年で３回目の開催となる今回の目玉商品は、「塩水ウニ」と「ホタテ塩水パック」。雄武の獲れたての味が楽しめると大変好評でした。そのほかにも、旬の毛ガニやグラスフェッドビーフ、日本一の作付面積を誇る韃靼そば、山漬け鮭あらほぐし、利尻昆布とオホーツクの海水塩を使ったドレッシシングなど、雄武の特産品が勢ぞろいしました。多くのお客様にお買い求めいただき、海産物など人気商品は早々に完売。雄武町公認キャラクター「いくらすじ子」も登場し、来場者と写真を撮ったり握手をしたりと雄武町を PR してくれ、盛況のうちに終えることができました。

ホテル１階レストランでは、雄武の特産品を使ったメニュー「雄武町産ホタテとモヤシの中華風サラダ」と「雄武町産グラスフェッドビーフの四川麻婆豆腐」も、多くの方に楽しんでいただきました。

物産展は秋にも開催を予定していますので、札幌近郊の方はぜひお越しください！

漁協青年部が漁港愛護表彰を受賞！

雄武漁協青年部（佐藤友亮部長）は、長年の漁港清掃活動が評価され、５月 30 日に札幌市で開催された北海道漁港漁場協会主催の第 27 回北海道漁港漁場大会において「漁港愛護優良団体一般表彰」を受賞しました。

雄武漁協青年部では、漁業関係者や来訪者へごみの不法投棄防止やごみ処理に関する知識の高揚を図ることを目的として、毎年町内４漁港（沢木、雄武、元稲府、幌内）において、ごみ拾いや除草などの清掃活動を続けており、その功績が評価され、この度の受賞に至ったものです。

表彰式では、長谷川一夫組合長が出席し、髙橋昌幸大会長から表彰盾並びに副賞を受け取りました。

森から海へ。ミズナラ 700 本を植樹

雄武漁協が主催する「お魚を殖やす植樹運動」が、６月６日に雄武町中幌内の幌内川流域で開催されました。漁協女性部や漁業者、関係団体など 105 名が参加。開会式では、長谷川一夫組合長が「木を植え育てることで生まれる森の栄養分が、川から海へと流れ出し、海の生き物が育つ良い環境ができる」とあいさつ。オホーツク総合振興局産業振興部林務課の担当者から植樹指導を受けた後、参加者は高さ 20 センチ程のミズナラの苗木 700 本を１本ずつ丁寧に植えていきました。

この運動は 1996 年から毎年続けられており、今年で 28 回目を迎え、累計した植樹の本数は 25,200 本となっています。

※マリンビジョンとは？
活力ある水産業や漁村の将来像を実現するため、水産物の安定供給体制や環境保全と循環型社会の構築、漁村地域の総合的な振興を目指す将来ビジョンです。

マリンビジョン21
MARINE VISION 21

【編集・発行】
雄武地域マリンビジョン事務局
【問い合わせ先】
雄武町役場　産業振興課　水産係
Tel：0158-84-2121　Fax：0158-84-2844
E-mail：suisan@town.oumu.hokkaido.jp